

平成19年度 定期作況報告

(10月20日現在)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

水田・転作科(岩見沢市)

I 気象概況

9月下旬:平均気温は平年より0.3℃低く、降水量は平年の89%、日照時間は平年の111%であり、少雨、多照に経過した。

10月上旬:平均気温は平年より1.1℃高く、降水量は平年の58%、日照時間は平年の134%であり、高温、少雨、多照に経過した。

10月中旬:平均気温は平年より1.9℃低く、降水量は平年の122%、日照時間は平年の91%であり、低温、多雨に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より0.4℃低く、降水量は平年の86%、日照時間は平年の112%であり、少雨、多照に経過した。

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	19.9	19.6	0.3	19.4	17.5	1.9	13.2	15.5	△ 2.3	17.5	17.5	0.0
最低気温(℃)	9.4	10.2	△ 0.8	8.8	8.4	0.4	4.6	6.1	△ 1.5	7.6	8.2	△ 0.6
平均気温(℃)	14.6	14.9	△ 0.3	14.1	13.0	1.1	8.9	10.8	△ 1.9	12.5	12.9	△ 0.4
降水量(mm)	39.5	44.2	△ 4.7	27.0	46.5	△ 19.5	39.5	32.4	7.1	106.0	123.1	△ 17.1
日照時間(hr)	59.9	53.8	6.1	62.6	46.6	16.0	45.1	49.3	△ 4.2	167.6	149.7	17.9

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成9年～18年10ヶ年平均値を農試が算出し使用。最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、日照時間は期間内の積算値を用いた。

II 作況

平成19年10月20日作況

5月20日作況 やや不良

事由: 本年は根雪終日が1日早かったが、4月下旬および5月上旬の降雨の影響により耕鋤初日は平年より7日遅れた。播種は平年より2日早い4月17日に行った。播種後の好天により、出芽まで5日で、出芽揃も良かった。5月上旬は気温が高かったものの曇天のため日照時間が少なく、中旬は気温、日照時間ともに少なかった。そのため、苗の生育は遅延した。移植は平年並の5月21日に行った。移植時における苗質は、「きらら397」および「ほしのゆめ」の両品種において草丈が1cm以上短く、莖数、主稈葉数は「きらら397」がほぼ平年並、「ほしのゆめ」が平年をやや下回っていた。また、乾物重も「きらら397」、「ほしのゆめ」の両品種とも平年より14～19%下回っていた。

以上により、現在の作況は、やや不良である。

6月20日作況 良

事由: 移植は平年並の5月21日に行った。苗質は平年より若干劣った。しかし移植後おおむね高温、多照に経過し活着は良好で、その後も好天が続く、順調に生育が進んだ。6月20日における草丈は、「きらら397」で平年の119%、「ほしのゆめ」で平年の115%で平年を上回った。また、莖数も「きらら397」で平年の187%、「ほしのゆめ」で平年の179%と両品種とも平年を大幅に上回った。主稈葉数も平年に比べ「きらら397」で1.5葉、「ほしのゆめ」で1.1葉上回り、1週間から10日ほど生育が進んでいる。

以上、生育は大きく進んでいることから、現在の作況は良である。

7月20日作況 やや良

事由: 幼穂形成期並びに止葉期は平年に比べ「きらら397」で4日、「ほしのゆめ」で3日それぞれ早かった。7月20日における草丈は、「きらら397」で平年比101%、「ほしのゆめ」で103%となり、ほぼ平年並であった。莖数は、「きらら397」で平年比116%、「ほしのゆめ」は121%と平年を上回った。主稈葉数は「きらら397」で0.9葉、「ほしのゆめ」で0.2葉それぞれ平年より上回った。

7月に入り最低気温が平年より低く推移し、特に7月11日から20日までは著しい低温が続いた。そのため生育が緩慢になるとともに、ちょうどこの期間が冷害危険期と重なった。幼穂形成期以降、深水管理に努めたが、障害型不稔の発生も考えられる。

以上のことを考慮し、現在の作況はやや良である。

8月20日作況 やや良

事由: 止葉始は平年より3～4日早かったが、7月下旬の低温により生育は遅延し、出穂期はほぼ平年並となった。8月上旬から天候は回復したが、8月20日における稈長は、「きらら397」で5.4cm、「ほしのゆめ」で5.7cmそれぞれ平年に比べて短く、穂長は「きらら397」で0.7cm、「ほしのゆめ」で1.2cm短かった。しかし、生育前半に天候に恵まれ莖数が確保できたことにより、穂数は「きらら397」で平年比119%、「ほしのゆめ」で122%であった。

以上より、穂長が短いものの穂数が多く、また、生育の早期に莖数が確保され登熟ムラが小さいことが見込まれるため、作況は「やや良」である。

9月20日作況 やや不良

事由:9月8日に台風9号が接近するものの、強風による被害はほぼ無かった。8月下旬の好天により登熟は順調に進み、成熟期は「ほしのゆめ」で9月10日、「きらら397」で9月12日と、平年より10日前後早かった。

稈長ならびに穂長は「きらら397」「ほしのゆめ」共に平年より短かったものの、穂数は平年比119～122%と大きく上回っていた。しかし、両品種とも一穂粒数が平年比で76～79%とかなり少ないため㎡当たりの籾数は、「きらら397」で平年比96%、「ほしのゆめ」で平年比93%と、平年より少なかった。また、稔実歩合も平年より2～4ポイント低くなっており、㎡当たりの稔実籾数は「きらら397」で平年の94%、「ほしのゆめ」で平年の89%と少なくなっている。

以上、㎡当たりの稔実籾数は平年より少なく、現在の作況は「やや不良」である。

10月20日作況 著しい不良

事由:成熟期は「きらら397」で9月12日、「ほしのゆめ」で9月10日となり、平年に比べそれぞれ11日、10日早く、登熟日数も両品種とも10日短かった。そのため、登熟歩合は平年より「ほしのゆめ」で0.8ポイント、「きらら397」で6.0ポイント高かったが、籾の充実が十分ではなく、精籾重は「きらら397」で11%、「ほしのゆめ」で22%それぞれ平年を下回った。本年は平年より粒が小さいことを考慮し、篩目は平年より0.05mm狭い1.85mmを使用したところ、千粒重は「きらら397」「ほしのゆめ」ともに平年より10%前後軽く、精玄米重も「きらら397」で8%、「ほしのゆめ」で16%平年を下回った。また、屑米重も平年の半分以下とかなり軽かった。

以上、収量は2品種平均で平年比88%であったことから、作況は著しい不良である。

平成19年作況最終報告

平成19年10月20日作況

品種名 項目 \ 年次		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年
播種期	(月.日)	4.17	4.19	△ 2	4.17	4.19	△ 2	4.17
移植期	(月.日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	5.21
幼穂形成期	(月.日)	7.04	7.08	△ 4	7.02	7.05	△ 3	6.29
止葉始	(月.日)	7.19	7.23	△ 4	7.18	7.21	△ 3	7.16
出穂期	(月.日)	8.03	8.04	△ 1	8.03	8.03	0	8.01
成熟期	(月.日)	9.12	9.23	△ 11	9.10	9.20	△ 10	9.12
穂揃日数	(日)	6.0	6.6	△ 0.6	6.0	7.8	△ 1.8	6.0
出穂日数	(日)	108	107	1	108	106	2	106
生育日数	(日)	148	157	△ 9	146	154	△ 8	148
草丈 (cm)	移植時	9.2	10.5	△ 1.3	10.0	11.0	△ 1.0	9.5
	6月20日	27.7	23.2	4.5	29.2	25.5	3.7	30.3
	7月20日	56.5	55.8	0.7	60.0	58.2	1.8	63.3
茎数 (本/m ²)	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.0	1.2	△ 0.2	1.0
	6月20日	528	282	246	525	293	232	448
	7月20日	950	819	131	988	816	172	853
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.2	3.3	△ 0.1	3.0	3.3	△ 0.3	2.9
	6月20日	8.0	6.5	1.5	7.4	6.3	1.1	7.5
	7月20日	11.4	10.5	0.9	10.1	9.9	0.2	10.7
	止葉	11.7	11.1	0.6	10.2	10.2	0.0	10.7
稈長	(cm)	58.2	63.6	△ 5.4	61.1	66.8	△ 5.7	62.5
穂長	(cm)	15.8	16.5	△ 0.7	14.5	15.7	△ 1.2	16.1
穂数	(本/m ²)	815	684	131	873	717	156	728
一穂粒数	(粒)	39.5	50.1	△ 10.6	34.8	45.9	△ 11.1	49.2
m ² 当粒数	(百粒)	322	339	△ 17	304	329	△ 25	358
稔実歩合	(%)	81.5	83.6	△ 2.1	84.2	87.8	△ 3.6	80.7
登熟歩合	(%)	80.5	74.5	6.0	79.6	78.8	0.8	76.8
籾摺歩合	(%)	79.2	76.1	3.1	67.1	71.6	△ 4.5	78.4
屑米歩合	(%)	3.4	8.1	△ 4.7	6.1	12.9	△ 6.8	3.4
千粒重	(g)	20.9	23.2	△ 2.3	19.8	21.9	△ 2.1	20.2
わら重	(kg/a)	70.0	66.3	3.7	70.0	67.0	3.0	80.0
精籾重	(kg/a)	64.4	72.6	△ 8.2	56.6	72.4	△ 15.8	63.8
精玄米重	(kg/a)	50.8	55.1	△ 4.3	43.2	51.6	△ 8.4	50.5
収量平年対比	(%)	92.2	100	△ 8	83.7	100	△ 16	-
検査等級			2中	-		2中	-	

注1) 平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均

注2) 本年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注3) 耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1.5t/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱

栽植密度 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え

反 復 : 2

注4) 刈り取り面積は一区3.6m²、精玄米重以下は水分15%換算値を、篩目は平年値は1.9mm、本年の値は1.85mmを使用した。

畑作の部

I 気象概況

畑作科(長沼町)

9月下旬:平均気温は平年並で、降水量は平年の53%、日照は平年の126%であり、やや少雨に経過した。

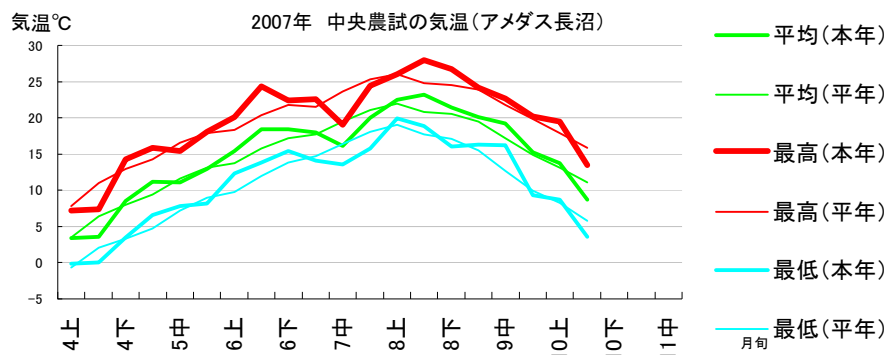
10月上旬:平均気温は平年より0.6℃高く、降水量は平年の44%、日照は平年の142%であり、やや高温・少雨・多照に経過した。

10月中旬:平均気温は平年より2.4℃低く、降水量は平年の34%、日照は平年の94%であり、著しい低温に経過した。

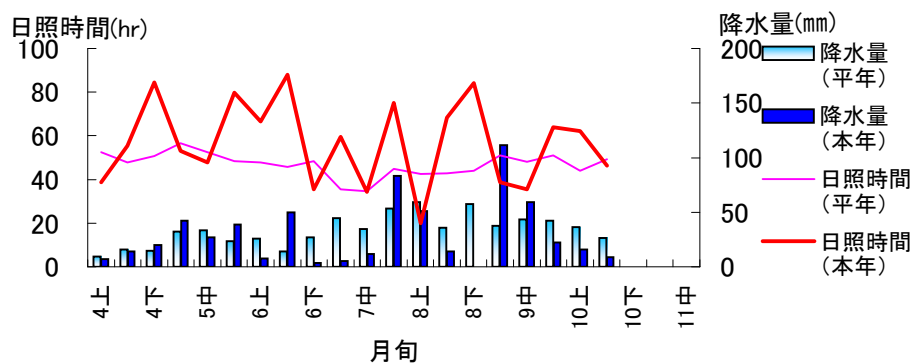
以上、1ヶ月を通じ気温は平年より0.5℃低く、降水量は平年の45%、日照時間は平年の120%であり、やや少雨に経過した。

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	20.2	19.8	0.4	19.5	17.9	1.6	13.5	15.9	△ 2.4	17.7	17.9	△ 0.2
最低気温(℃)	9.3	9.9	△ 0.6	8.7	8.3	0.4	3.6	5.8	△ 2.2	7.2	8.0	△ 0.8
平均気温(℃)	15.2	14.9	0.3	13.7	13.1	0.6	8.7	11.1	△ 2.4	12.5	13.0	△ 0.5
降水量(mm)	22.5	42.3	△ 19.8	16.0	36.6	△ 20.6	9.0	26.1	△ 17.1	47.5	105.0	△ 57.5
日照時間(hr)	4.0	3.7	0.3	3.0	4.3	△ 1.3	4.0	3.3	0.7	11.0	11.3	△ 0.3

注) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は平成9年～18年10ヶ月間平均値を農試が算出し使用。最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、日照時間は期間内の積算値を用いた。



2007年 中央農試の日照時間と降水量(アメダス長沼)



Ⅱ 作 況

平成19年10月20日作況

1. 秋まき小麦(平成19年播種)

平成19年

9月20日作況 平年並

事由：9月2半旬以降の多雨のため、播種は平年より4日遅い9月19日であるが、安定した越冬のために必要な主茎葉数6葉以上を確保するためには問題が無い程度の遅れと見られる。

以上により、現在の作況は平年並である。

10月20日作況 やや不良

事由：播種後気温は平年並み～やや高めに推移し、出芽期は播種の遅れと同等の平年比4～5日遅れとなったが、出芽そのものは順調であった。10月中旬が低温に推移したため、この間の生育の進展は緩慢となり、10月20日現在で草丈及び茎数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

平成20年

5月20日作況

事由：

6月20日作況

事由：

7月20日作況

事由：

8月20日作況

平成20年最終作況

事由：

平成19年10月20日作況

1. 秋まき小麦(平成19年播種)

項目	品種名 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H19.月.日)	9.19	9.15	4	9.19	9.15	4
出芽期	(H19.月.日)	9.25	9.21	4	9.26	9.21	5
出穂期	(H20.月.日)		6.04			6.11	
成熟期	(H20.月.日)		7.18			7.25	
冬損程度	(0:無~5:甚)		1.1			1.2	
草丈 (cm)	H19.10.20	16.8	21.9	△ 5.1	16.0	25.4	△ 9.4
	H20.5.20		52.5			52.8	
	H20.6.20		96			105	
茎数 (本/m ²)	H19.10.20	514	867	△ 353	456	901	△ 445
	越冬前(11月)		1299			1424	
	H20.5.20		1171			1318	
	H20.6.20		686			716	
成熟期における	稈長 (cm)		91			103	
	穂長 (cm)		9.0			8.6	
	穂数 (本/m ²)		634			628	
倒伏程度	(0:無~5:甚)		1.1			2.3	
子実重	(kg/10a)		643			582	
リットル重	(g)		805			795	
千粒重	(g)		38.3			43.6	
品質	(等級)		2等			2等	
子実重	平年対比 (%)		100			100	

注1) 平年値は前7か年中、最凶(ホクシンH18、ホロシリH14)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH16)を除く

5か年平均(収穫年度)。

2) △は平年より早、短、少を表す。

3) 倒伏程度: 成熟期における倒伏程度。

平成19年10月20日作況

2. 大豆

6月20日作況 やや良

事由：播種は平年より1日早い5月22日に行った。出芽期は平年と同じ6月2日であった。出芽後は好天に恵まれたため、主茎長および主茎節数は平年を上回った。

以上により、現在の作況はやや良である。

7月20日作況 やや良

事由：6月下旬までの好天により主茎長、主茎節数、分枝数は平年よりやや多く、開花期は平年よりツルムスメで4日、トヨムスメで3日早かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

8月20日作況 やや不良

事由：7月中下旬は低温に経過したが、その後の好天により生育は平年を上回り、開花期はユウヅルで平年並みの他は平年より早かった。しかしながら、開花期前後の低温の影響により着莢数はスズマルを除いて平年並みから平年を下回り、特にトヨムスメでは平年の86%となった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

9月20日 やや不良

事由：7月中下旬の低温とその後の干ばつ傾向の気象の影響で、トヨムスメとユウヅルの着莢数は平年の90%および86%である。しかしながら、8月中旬から9月上旬にかけて高温に推移したため登熟は平年より進んでいる。

以上により、現在の作況はやや不良である。

10月20日 不良

事由：8月中旬から9月上旬にかけて高温、干ばつ傾向に推移したため、成熟期は平年より5~9日早かった。ツルムスメおよびスズマルでは着莢数は平年並からやや多かったが、登熟期間が短くなったことから百粒重が平年の90%および80%と軽く、子実重は96%および87%と平年を下回った。7月中下旬の低温の影響により着莢数が平年の89%および90%と少なかったトヨムスメおよびユウヅルでは、百粒重は補償的な作用で平年並からやや重くなったものの、子実重は89%および86%と平年を下回った。

以上により、現在の作況は不良である。

最終

事由：

平成19年10月20日作況

2. 大豆

項目	品種名 年次	ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1
出芽期	(月.日)	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0
開花期	(月.日)	7.17	7.21	△ 4	7.29	7.29	0	7.14	7.17	△ 3	7.22	7.25	△ 3
成熟期	(月.日)	9.22	9.29	△ 7	10.09	10.14	△ 5	9.20	9.29	△ 9	9.22	9.30	△ 8
主茎長 (cm)	6月20日	13.6	8.5	5.1	12.7	8.8	3.9	15.3	10.3	5.0	9.9	8.0	1.9
	7月20日	51.9	47.1	4.8	46.5	43.3	3.2	56.8	50.7	6.1	45.3	38.5	6.8
	8月20日	59.9	57.4	2.5	88.8	84.1	4.7	62.2	60.1	2.1	69.7	70.6	△ 0.9
	9月20日	57.7	57.9	△ 0.2	85.4	84.4	1.0	60.4	59.8	0.6	71.5	71.6	△ 0.1
	成熟期	57.7	57.8	△ 0.1	87.9	84.9	3.0	60.4	59.7	0.7	71.5	68.9	2.6
主茎節数 (節)	6月20日	3.9	3.4	0.5	3.4	3.2	0.2	3.3	3.0	0.3	4.0	3.4	0.6
	7月20日	11.5	10.9	0.6	10.9	10.7	0.2	10.1	9.8	0.3	11.6	10.3	1.3
	8月20日	13.6	12.1	1.5	16.3	15.7	0.6	10.2	10.4	△ 0.2	15.5	14.3	1.2
	9月20日	12.0	12.2	△ 0.2	15.1	15.8	△ 0.7	9.9	10.4	△ 0.5	14.3	14.3	0.0
	成熟期	12.0	12.1	△ 0.1	16.1	16.0	0.1	9.9	10.5	△ 0.6	14.3	14.3	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	7.1	6.1	1.0	4.3	4.1	0.2	5.7	6.2	△ 0.5	9.0	7.4	1.6
	8月20日	6.9	6.2	0.7	5.0	4.7	0.3	6.5	6.3	0.2	12.4	10.9	1.5
	9月20日	5.8	5.7	0.1	3.0	4.3	△ 1.3	5.2	5.8	△ 0.6	10.4	10.4	0.0
	成熟期	5.8	5.9	△ 0.1	3.7	3.8	△ 0.1	5.2	5.8	△ 0.6	10.4	9.9	0.5
着莢数 (莢/株)	8月20日	53.9	54.1	△ 0.2	39.9	42.6	△ 2.7	59.6	69.6	△ 10.0	164.8	140.1	24.7
	9月20日	53.2	51.7	1.5	46.9	55.6	△ 8.7	58.5	65.5	△ 7.0	128.6	120.9	7.7
	成熟期	53.2	51.7	1.5	48.7	55.0	△ 6.3	58.5	65.2	△ 6.7	128.6	121.2	7.4
一莢内粒数	1.72	1.83	△ 0.11	1.64	1.74	△ 0.10	1.79	1.84	△ 0.05	2.39	2.43	△ 0.04	
子実重 (kg/10a)	324	337	△ 13	288	333	△ 45	348	392	△ 44	289	332	△ 43	
百粒重 (g)	41.7	46.2	△ 4.5	47.1	44.0	3.1	38.6	39.2	△ 0.6	12.2	15.2	△ 3.0	
屑粒率 (%)	4.8	2.3	2.5	6.6	2.8	3.8	4.3	1.8	2.5	2.6	1.6	1.0	
品質 (等級)		3上			3下			3下			2中		
子実重平年対比(%)		96	100		86	100		89	100		87	100	

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均で「スズマル」のみ
前6か年の最凶最豊を除く4か年平均を平年とし参考値を示す。

注2) 「ツルムスメ」、「トヨムスメ」、「スズマル」は9月作況の調査日と成熟期が近接しているため
9月作況の調査値をもって成熟期調査値とした。

注3) 子実重および百粒重は子実水分15%換算値。

平成19年10月20日作況

3. 小豆

6月20日作況 良

事由：播種期は平年より3日早かった。その後気温は平年並に経過し、降雨もあったことから出芽は順調で、出芽期は平年より5日早い6月7日であった。また、主茎長は平年より1.8cm長く、主茎節数も平年より1.6節多かった。

以上により、現在の作況は良である。

7月20日作況 良

事由：6月下旬～7月上旬にかけて好天に経過したことから、主茎長、主茎節数および分枝数はほぼいずれも平年を上回り、特に分枝数は平年より4本以上多かった。

以上により、現在の作況は良である。

8月20日作況 良

事由：開花期は平年並の7月25日であった。7月中旬以降低温であったが、8月に入り高温に経過したため、主茎長、主茎節数および着莢数はいずれも平年を上回った。

以上により、現在の作況は良である。

9月20日作況 良

事由：8月中旬から9月上旬にかけて高温、干ばつ傾向に推移したため成熟は進み、成熟期は平年より5日早い9月5日であった。また、生育については前月に引き続き主茎長、主茎節数および着莢数はいずれも平年を上回った。

以上により、現在の作況は良である。

10月20日作況 良

事由：成熟期は平年より5日早かった。子実重は平年を上回り、平年対比114%と多収であった。平年に比べ百粒重は平年よりやや小さく、屑粒率は少なかった。

以上により、現在の作況は良である。

平成19年10月20日作況

3. 小豆

品種名		エリモシヨウズ		
項目	年次	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.23	5.26	△3
出芽期	(月.日)	6.07	6.12	△5
開花期	(月.日)	7.25	7.25	0
成熟期	(月.日)	9.05	9.10	△5
主茎長 (cm)	6月20日	5.8	3.6	2.2
	7月20日	26.3	19.7	6.6
	8月20日	82.7	57.1	25.6
	成熟期	84.6	59.0	25.6
主茎節数 (節)	6月20日	2.6	1.3	1.3
	7月20日	9.9	7.8	2.1
	8月20日	13.3	12.9	0.4
	成熟期	13.6	12.8	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	7.2	3.5	3.7
	8月20日	7.9	4.4	3.5
	成熟期	6.9	3.8	3.1
着莢数 (莢/株)	8月20日	66.9	55.0	11.9
	成熟期	64.4	48.1	16.3
一莢内粒数		5.18	6.30	△1.12
子実重 (kg/10a)		345	303	42
百粒重 (g)		12.4	13.2	△0.8
屑粒率 (g)		3.3	6.6	△3.3
品質 (等級)			3中	—
子実重平年対比	(%)	114	100	

4. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。